

# 【社会科・中3 公民的分野・「地方自治と私たち」①】

## 育成を目指す資質・能力

<本時のねらい>

「下仁田町のよりよい未来の在り方」について提案し、疑問に思ったことを質問し合う活動を通して、自分たちの提案の問題点を明らかにするとともに、様々な視点や立場で物事を考え、表現できるようにする。

## ICT活用のポイント

生徒一人一人の「下仁田町のよりよい未来の在り方」の提案について、「内容・質問や疑問・追加資料」をホワイトボードアプリを用いて整理することを通して、効率よく提案内容の問題点を明確にし、改善する授業。

### 【つかむ】

前時の学習を振り返り、  
本時のめあてをつかむ。

### 【追究する】

「プレ下仁田議会」  
よりよいまちづくりを提案し合い、  
提案内容の問題点を伝え合う。

自分たちの提案で明確になった  
問題点を踏まえ、内容を改善する。

### 【まとめる】

本時のめあてに対するまとめを  
確認し、学習内容を振り返る。

## 事例の概要

- **学習データ**を活用し、前時までの学習の振り返りをする。

<めあて>

「プレ下仁田議会」を通して、より納得できる解決策にするために必要なことを明らかにし、改善しよう。

## 【事例におけるICT活用の中心場面】

- 「下仁田町のよりよい未来の在り方」への各々の提案を、**プレゼンテーションソフト**を用いて、伝え合う。（根拠をデータ等で示す）
- 提案に対して問題点を指摘、質問し合う。その際、以下の視点や立場から考える。  
「効率」「公正」「実現可能」「継続可能」の視点  
「行政」「企業」「住民」の立場  
} **ホワイトボードアプリ**の活用  
(共有機能)

- 振り返りを**アンケートフォーム**で記述・回答させ、データ化し蓄積する。

※単元計画において、実際に生徒が町役場を訪れ、考えた改善策を（提案書）町長にプレゼンをする。【実施 新聞掲載】

# 【社会科・中3 公民的分野・「地方自治と私たち」①】

## 【事例におけるICT活用の主な場面①】



写真1

「下仁田町のよりよい未来の在り方」について各々の提案を伝え合う場面では、生徒が事前にプレゼンテーションソフトを用いて、提案内容やその考えに至った根拠を入れた説得力のある発表資料を作成した。実際の活動において生徒は、数値データ等の根拠を示すことで自信をもち提案の内容を伝えることができおり、聴く側の生徒も内容や根拠の関連などが可視化されていたため、他者と考えを共有でき、その後の改善点等についてアドバイスをしやすくなっていた。

進路の不安を消すためにも、特色ある教育を実施して、就職や資格取得に結び付けるビジョンなども提案に入れたらいいと思うよ。

## 【事例におけるICT活用の主な場面②】

【提案】「下仁田町の幼稚園から高校までを一貫校に」  
「人気が高い一貫校に15年通うなら、通学時間と費用が浮くため入学時に家族で移住する人が増えるのではないか。」

※町内の小中学生が15年で減少したことを図示し、集団が大きければ友達もたくさん作れるなど述べた。

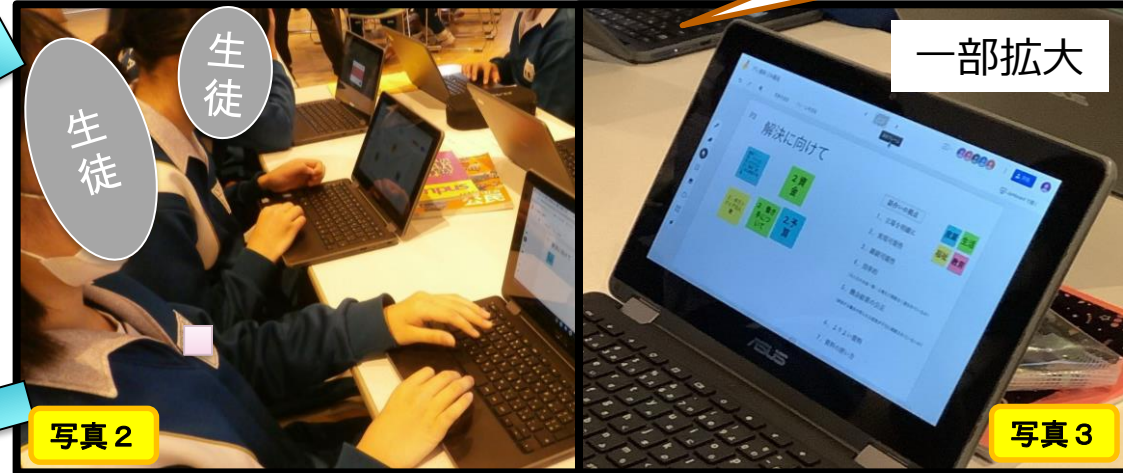


写真2

写真3

## 【事例におけるICT活用の主な場面③】



写真4

ホワイトボード機能を用いて、改善点等を数人で同時に付箋に記述した【共有化・効率化】。その際、現代社会の見方・考え方の枠組みである「効率」「公正」の視点や、「実現可能」「継続可能」の視点、また、「行政」「企業」「住民」の立場から意見を伝え合ったため、多面的・多角的な見直しを図ることができていた。

学校の特色を出すというアドバイスは取り入れて改善しよう。あと、移住するとなれば、同時に駅前開発の視点からも町に提案していけるといいね。

【活用したソフトや機能】

- ・プレゼンテーションソフト
- ・ホワイトボード機能
- ・学習支援ソフト
- ・文章作成ソフト